

# 算命学中庸

## 【初年】 1 3 回目

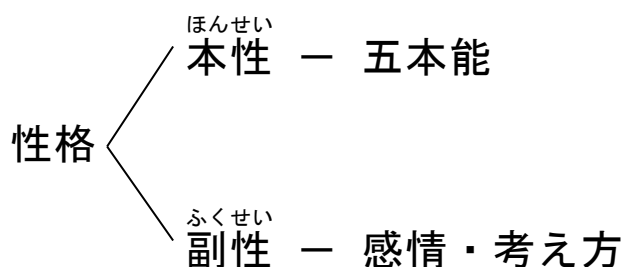
1 3 回目の授業はこのページからです。

### 授業科目 【性格と本能】

【初年】 1 3 回目 【性格と本能】 01

前回の授業【本能論】に補足する部分がありますので、そこから始めます。

人間の性格は、<sup>ほんせい</sup>本性と呼ばれるものと、<sup>ふくせい</sup>副性とよばれるものから成り立っていると算命学では考えています。



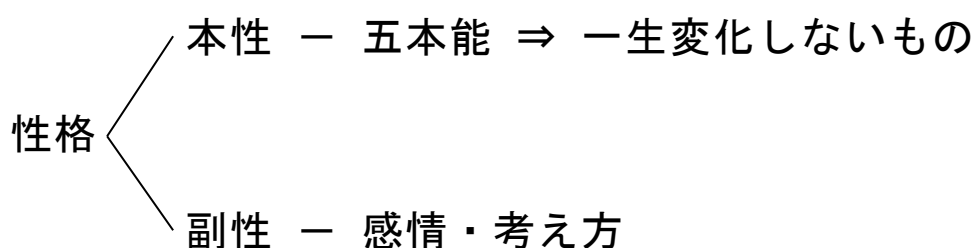
宿命 ( 1 ) 性格

『<sup>ほんせい</sup>本性』は五本能のことを指します。

『<sup>ふくせい</sup>副性』は感情とか、その人の考え方など指します。

そこで……五本能の<sup>なに</sup>何本能が強くて、何本能が弱くて、  
というのを、宿命から見てみて行くようになりますが、  
五本能の部分は、一生変化しないものと算命学では考え  
ています。

宿命（2）性格



「生まれつき攻撃本能が強い人です」といえば、その人は、一生攻撃本能が強い人であり、そのこと自体は変化しません。

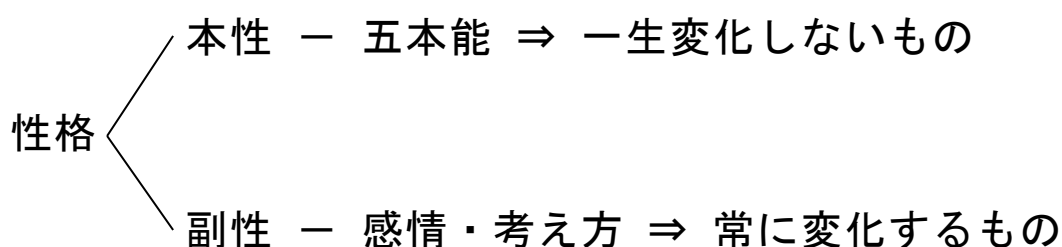
でも、人によっては「あの人って、ちょっと合わないあいだに、ずいぶん性格が変わった、人が変わったみたい」というようなことはあるでしょう。

それは本能のほうが変わったのではなくて、感情とか、考え方のほうが変わったのです。

感情とか考え方は、常に変化するものと考えています。

このことは……ご自分を振り返ると、ご理解して頂ける  
と思います。

**宿命（3）性格**



ひとつ知っておいて頂きたいのです。

皆様はこれから算命学をもちいて性格判断をするようになるわけですが、性格判断は『本性』を中心におこないます。

**性格判断は本性を中心におこなう**

性格判断は、本性つまり五本能を中心におこないます。

『副性』の感情とか、考え方は、常に変化するものですから、副性を主にして性格判断をすることはありません。

〔たとえば〕「結婚をするので、相性を見て欲しい」というときに、〔この二人はとても愛し合っていて、相手のことをお互いに好き〕というのは——それは感情ですよね。好きだから、その人と相性がよいとは限らないのです。

なぜかといえば——好きという感情は変化しますから、  
〔死ぬほど好き〕とあって結婚した人が、〔相手を死ぬほど嫌いになって〕別れたりするかも知れないのです。

この2人はすごく好き合っているから、相性<sup>あいしょう</sup>がよいのではないか……とおもったら大間違いです。

〔好きとか嫌い〕それはまったく当てにならないのです。  
まずは、そのようにおもって占うことです。

〔好きとか嫌い〕それと相性は別ものです。

あるいは〔あの人はいい人だ〕という言い方をすることがあると思いますが、〔いい人〕というのも、どちらかといえば、感情の部分・考え方の部分です。

結婚の話にしても、いい人だと思って結婚したら、嫌<sup>いや</sup>な人だったから離婚する。ということもあるわけです。

または、「あの人、いい人だってね」「あの人はいい人よ」とか、そう言い方をすることがあると思いますが、「あの人はいい人よ」といった人物はそう思っても、別の誰かは〔あの人悪い人だよ〕と思うかも知れません。

阿部晋三総理のことでも、いい首相だと言う人もいれば、信用できないとか、そのように言う人もいるわけです。

それは各人によって、『副性』の感情や考え方が違うからです。

五本能のほうは、一生変化しないものだと考えています。それゆえに、五本能を中心に性格判断をおこなっていくようになります。

【初年】 13回目【性格と本能】 **終わります**

つぎの授業 ⇒ 【初年】 14回目【本能と五行】